

2025年度

# 保育の質向上ワーキング 実践事例集

2026（令和8）年 3月  
新潟市立園  
保育の質向上ワーキングチーム



## はじめに

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、保育に求められる役割もますます重要になっています。子ども一人一人の育ちを大切に、安心して過ごせる環境の中で豊かな経験を重ねていくことが、保育に携わる私たちの大切な役割です。

保育の質は、日々の保育の積み重ねと、職員同士の学び合いや振り返りの中で高められていくものです。

本実践事例集は、「令和7年度 新潟市立園保育の質向上ワーキングチーム(※)」構成園が、日々試行錯誤しながら取り組んできた実践や工夫を共有し、保育の質向上につなげることを目的として作成しました。それぞれの実践が、現場でのヒントや気づきになれば幸いです。

今後もより良い保育の実現に向けて共に歩んでいきたいと考えています。

※「組織全体で、保育の質向上をめざし実践を発信していく」ことを目的に新潟市立園で構成されたワーキングチームです。

2026(令和8年)3月 新潟市立園 保育の質ワーキングチーム一同

## こども基本法 こども施策 6つの基本理念

- 1 すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと。
- 2 すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育が受けられること。
- 3 年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できること。
- 4 すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれらからにとって最もよいことが優先して考えられること。
- 5 子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。
- 6 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること。

こども家庭庁より

## 目次

はじめに	1
質の取組を園評価につなげていく	3
本事例集の活用にあたって	4
活用事例	5

### 保育の各現場における取組の事例

#### ① 園の方針を発信し、実践を振り返る

事例 1 園の保育の質の向上を目指して ～職員間の共通理解と保護者と手を取り合い 成長を喜び合える保育のために～	5
事例 2 『本物のドーナツ屋さんになりたいな！』 ～遊びからつながる3歳児の保育実践～	7
コラム 『今こそ「こどもの権利」を考えると』	9

#### ② 職種をこえて、語り合いや園内研修を活かす

事例 3 楽しかった！明日もたのしみ！！な保育園 (こどももおとなも！！)	11
--	----

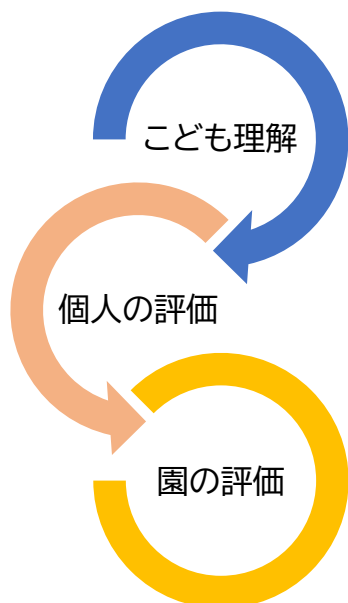
#### ③ ICTの活用 ミドル保育士の活躍

事例 4 みんなで語り合おう ～こどもをまんやかにした保育～	13
コラム 『どこの園でも保育はどんどん良くなる』	15

#### ④ 行事を見直しこども主体の保育へ

事例 5 “こどもの思い”をのせた発表会にするために	17
事例 6 こどもが主役の行事に ～保育が見える化し、こどもの思いを形に～	19

## 質の取り組みを園評価につなげていく



⇒改善、次の計画等へ



こどもの姿を語り合い  
園の評価につなげよう

こどもたちのウェルビーイング実現のために

～こどもの姿を語り合い 園の評価につなげよう～

「保育の質向上ワーキングチーム」では、新潟市立園で保育に携わる職員が、各園での取り組みを持ち寄って語り合い、気づきや提案を園に持ち帰ることで、保育実践に活かしてきました。

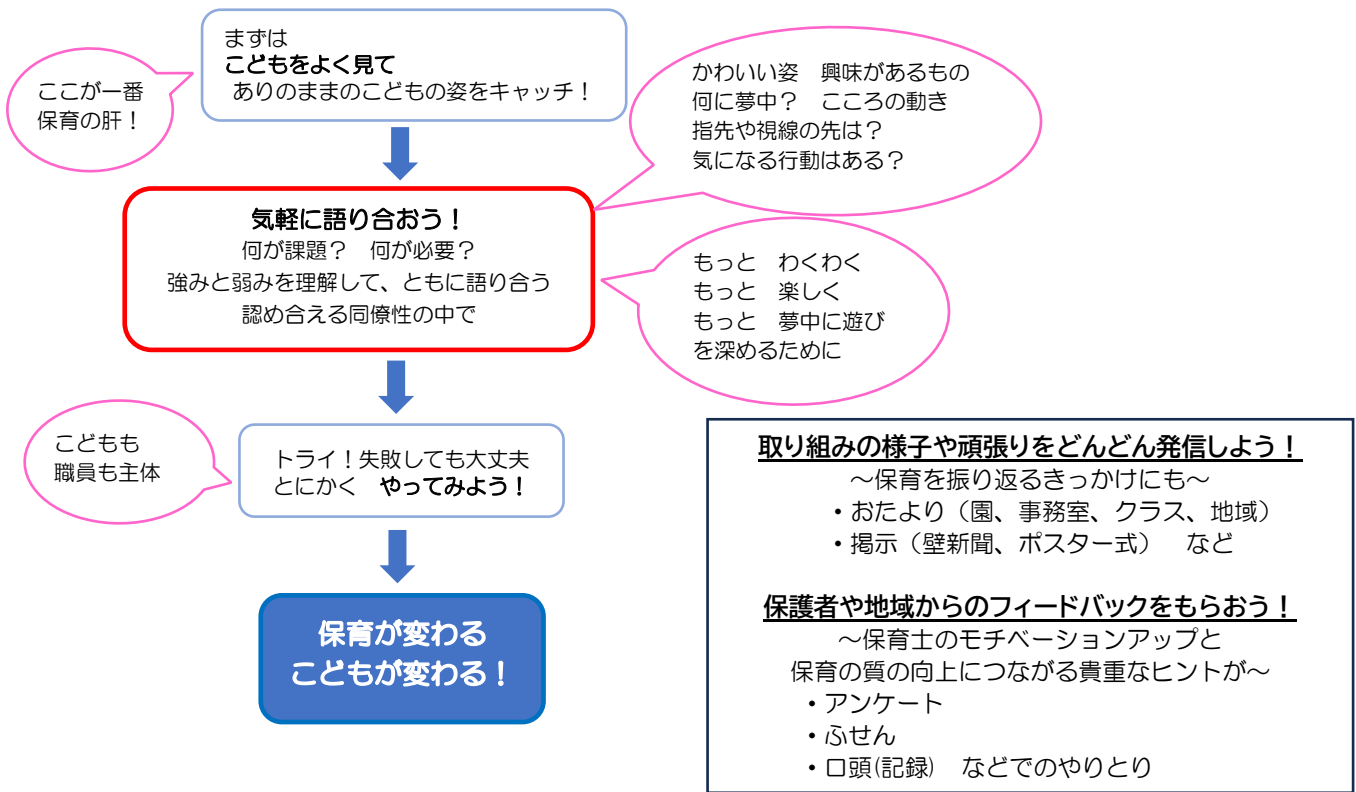
また、こどもの姿からの振り返りを保育の改善や実践につなげていき、この繰り返しを見える化して、保護者や地域に伝えていくことで、自己評価、園評価にも結びつけています。

皆さまの園でも日々、職員間でこども理解や保育の振り返りにつながる語り合いを行っていると思います。各園が取り組まれている語り合いや園内研修、園の実情の取り組みを、ぜひ園評価に活かしていただきたいと思います。

〈活用事例〉

保育の質向上の取組内容	参照事例
① 園の方針を発信し、実践を振り返る	事例1 ( 5頁) 事例2 ( 7頁)
② 職種をこえて、語り合いや園内研修を活かす	事例3 (11頁)
③ ICTの活用 ミドル保育士の活躍	事例4 (13頁)
④ 行事を見直しこども主体の保育へ	事例5 (17頁) 事例6 (19頁)

## 本事例集の活用にあたって



- 職員一人ひとりがこどもをよく見て理解しよう
- こどもをまんなかに職員同士で気軽に語り合おう  
～誰もが認められる環境の中で同僚性を高めよう～
- こどもも職員も主体となって まずはやってみよう
- 振り返り改善 そしてまたやってみよう



日々の取り組みを保護者や地域にわかりやすく見える化して発信  
『様々な人から意見を広く聞くことは、保育について保護者や地域住民等と相互理解を深めるとともに、自分たちの保育の良さや特色、課題を再認識し、次の保育に向かう過程の一環です。』

(保育所における自己評価ガイドラインより)

※ 6つの事例は、各施設が日常の保育の中で、園の理念を念頭において試行錯誤を重ねながら取り組んできた、等身大の実践をまとめたものです。完成された形や最善の方法を示すものではありません。日々の工夫や挑戦の積み重ねの1つとして捉えていただき、それぞれの園の状況に応じて、あらたな一步を踏み出すきっかけとしてご活用ください。

### 【事例集の構成】

左ページ: 保育の質の向上に向けた取り組み  
右ページ: 園評価、公表への取り組みを記載しています。

事例1

# 園の保育の質の向上を目指して

～職員間の共通理解と保護者と手を取り合い成長を喜び合える保育のために～

【目的】

園の保育理念、保育方針、保育目標を職員間で共有し、同じ方向を向いて保育をしていくことを目的として、職員間で対話を重ねていくことで子ども理解、保育の質の向上と子ども達の遊びの充実につなげる

【園内の取り組み】

令和7年度 4月園内研修にて  
保育園保育過程の保育目標3つについて語り合い



園で取り組んでいることを見える化して共有

保護者への発信

主任だよりで発信

**よりよい保育を目指して**  
～園内での取り組みのご報告～

保育園では、子どもたちが一人ひとりが安心して過ごし、豊かに育っていただけるよう、保育について語り合いを行い保育の質の向上に努めております。

その取り組みの一つとして、現在園内で「公開保育」を行い、職員同士で保育の様子を見学し合いながら、子どもたちの育ちや保育の在り方について意見を交わしています。

また、職員でグループを作り、各クラスの子どもたちの遊びの様子や、育ちのペースを丁寧に見取り、全体の園内研修で発表し合い共有することで、様々な視点での子どもの育ちの気づきや子ども理解につなげていきます。

こうした積み重ねを通して、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境作りやよりよい保育者の関わりを繰り返し見直し、改善する取り組みを行っています。

保護者への発信・公表  
保育の学び

保育園 令和7年度

保育の質の向上への取り組み 保育の振り返りと園評価 ～保護者と手を取り合い成長を喜び合える保育のために～

<p><b>保育理念</b> 子ども達の最善の利益を保障し、地域家庭に親しまれ、信頼される保育園を目指す</p> <p><b>保育方針</b> ① 笑顔と手を取り合い、成長を喜び合える保育 ② 一人一人を大切に、安定的情緒と健康な身体を育む ③ 様々な活動・経験を通して、意欲的に生きる基礎を培う</p> <p><b>保育目標</b> ◇ 友だちに親しみをもち、よく遊ぶ子ども ◇ 自分で考えて行動する子ども ◇ 豊かな感性と思いやりを持つ子ども</p>	<p><b>園の保育方針についての発信</b></p> <p>★年度初め 理念・方針・目標の確認</p> <p>★年度末 理念・方針・目標の見直し 研修の振り返りと課題について</p>	<p><b>保育全般についての発信</b></p> <p>園長だより ～園長コラム～ 主体性・保護者との対話・楽しい遊びワクワクする経験</p> <p>地域だより 地域へ発信 園の保育を理解してもらう</p> <p>主任だより ～愛着について～クラス懇談での満和園内研修の取り組み</p>
<p><b>園内研修 取り組みの発信</b></p> <p><b>子ども理解</b> クラス会議等で一人一人を理解する 保育士同士の語り合い 保育の課題→異年齢の関わりを増やす</p> <p>園内公開保育 ・職員全員で一人一人の子どもの遊びを詳しく観察、発達課題を理解する チーム記録 ・日々の保育の振り返り、見直し、反省、工夫</p> <p>テーマ別研修 ・テーマと支え合い保育 早期、延長保育職員研修(丁寧な関わりとは)</p> <p>自己評価(人事評価) 職員個々の保育の取り組み、振り返り</p>	<p><b>園内研修テーマ</b> めざそう！子どもも保護者も保育者もわくわくできる保育園！</p>	
	<p><b>子どもの姿の発信</b> 保護者との語り合い</p> <p>・ICTで活動の記録の配信 育ちを伝える(遊びのドキュメンテーション)</p> <p>・連絡帳 ・個人懇談 クラス懇談 ・保育参加 ・日々の対話</p>	

11月園内研修で振り返り語り合い

子ども達が嬉しそうにしているのを見ると保育者も嬉しい

子どもは大人がかかわった分「大好き！」を返してくれる

子ども達のワクワクと大人のワクワクがワクワクの連鎖に繋がっている

保育の仕事は人と人が触れ合うこと他の仕事にはない魅力がある！！

**子どもの姿を理解して共有し、笑い合う瞬間が増えた！**

## 🌱 保育理念

〇こどもたちの最善の利益を保障し、地域家庭に親しまれ、信頼される保育園を目指す

## 🎯 保育目標

- ◇友だちに親しみを持ち、よく遊ぶこども
- ◇自分で考えて行動することも
- ◇豊かな感性と思いやりを持つこども

## 主任だより

### よりよい保育を目指して～園内での取り組みのご報告～

保育園では、子ども一人ひとりが安心して過ごし、豊かに育っていけるよう、保育について話し合いを行い保育の質の向上に努めています。その取り組みの一つとして、現在園内で「公認保育」を行い、職員同士で保育の様子を見学し合いながら、子どもたちの育ちや保育の在り方について意見交換しています。また、職員でグループを作り、各クラスの子どもの遊びの様子や、育ちのペースを丁寧に観察し、全体の園内研修で発表し合い共有することで、様々な視点での子どもの育ちの気づきや子ども理解につながっています。

写真などを使って子どもの姿を話し合った記録を発表しています。



こうした取り組みを通して、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境作りやよりよい保育者の関わりを繰り返して見直し、改善する取り組みを行っています。クラスを見学し発表の気づきの中では、担任が仲立ちをしなくても子どもたちは友だちと素直な関わりをしていたりすることもありました！

## 園長だより

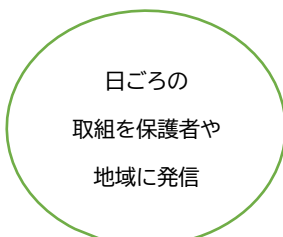
### 令和7年度保育の振り返り

- 1. 保育のビジョンと理念**
  - 〇保育理念
    - 子どもの最善の利益を保障し、地域家庭に親しまれ、信頼される保育園を目指しています。
  - 〇キーワード
    - 「わくわく」をキーワードに、職員全員が同じ方向を向いて保育を行うことを重視して保育に取り組みました。
- 2. 5歳までに育てたい3つの目標**
  - 園内研修を通じて、以下の3点を保育目標として子ども達の育ちについて共有しました。
    - ・友だちに親しみを持って遊ぶ
      - 保育者との養育形成を土台に、友だちとの関わりを楽しむ。
    - ・豊かな感性と思いやりを持つ
      - 自己表現や気持ちの言語化を助け、相手の思いに気づける心を育む。
    - ・自分で考えて行動する
      - 安心できる環境の中で自信をつけ、見通しを持って行動できるようにする。
- 3. 具体的な取り組み(遊びを通じた育ち)**
  - ・色々な遊びを通して大切に、遊びの中から育つ力を育みました。
  - ・公園保育
    - 保育者同士が互いの保育を見学し合い、子どもの育ちや関わり方について意見交換を行うことで、視点を広げ理解を深めました。
  - ・あそびの重要性
    - 「まはす『あそび』!!」とし、保育者が一緒に遊ぶことで五感を刺激した遊びを展開し、育ちを支えることを大切にしました。

- 4. 取り組みの成果「良かった事」**
  - ・子どもの変化
    - 異年齢児への思いやりが芽生えたり、友だちとよく遊べるようになったりする姿が見られました。
  - ・保育者の変化
    - 職員間での保育課題の共有や話し合いができ、大人の「ワクワク」が子どもの「ワクワク」に伝わる経路が生まれています。
  - ・保護者との関わり
    - 下等生メンタープログラムやクラス作りを通じて園での姿を「見える化」し、成長を喜び合える関係構築することができました。
- 5. 今後の課題と改善点**
  - ・あそびの展開
    - 既存の玩具に頼りすぎず、今後も子どもの興味から広がる環境作りや、新しい遊びを取り入れることを検討していきます。
  - ・関わり方の質
    - 一人ひとりと平等に関わられているかの再確認や、保育の当たり前の固定概念の見直しをしながら、「子どもにとってどうか」を考えて関わり方の質を高めていきたいと思ひます。「コミュニケーションの土台作り」連絡事項だけでなく、保護者との対話を深めることを通じて、より深い関係づくりをこれからも目指します。

## 💡 園評価に使ったツール

- ☑ 園長だより
- ☑ 地域だより
- ☑ 主任だより
- ☑ 保育ドキュメンテーション
- ☑ 保護者アンケート



## 📢 公表

- ☑ 園長だより
- ☑ 主任だより
- ☑ 保護者アンケート



## 🗣️ 保護者の声 〽️保護者アンケートより〽️

〇いつもこどもから「園でこういうことをしたよ!」「今日も楽しかった。」ときらきらした眼差しで話してくれたり「明日は何するかな。」と期待とワクワクが伝わってきます。先生方がいつも子ども達の為に色々と考えて下さっていて充実した園生活を送っているんだなと感じています。いつも子ども達のワクワクできるような事を考えて下さりありがとうございます。



〇毎日の保育・温かい関わり、ありがとうございます。日々の遊びや行事に向けた取り組みをこどもが自ら楽しんでいること、次の日に保育園に行くことや次の行事を楽しみにしていることなどが、こども自身の話や活動記録(写真や文)から伝わってきます。こどもが楽しんで育つ姿に、私たち保護者も子育ての嬉しさや楽しさが感じられ、先生方には感謝です。

## 🌸 振り返り 園評価

〇園の保育理念、保育方針、保育目標を軸に「ワクワクできる保育園」をキーワードに職員全員で同じ方向を向いて保育できるように園内研修を進めてきた。こども一人一人を理解することが一人一人のワクワクに繋がり、園での楽しい経験がこども達の育ちに繋がることで、こども主体のワクワクサイクルに取り組みむことができた。また室内遊びが既存の玩具に頼りがちになってしまっている課題も見えてきた。こどもの興味から広がる環境の工夫も改善していきたい。

〇保育の振り返りの話し合いを重ね、来年度も、この3本の保育目標を柱に保育を行っていくこととした。これからも保護者の皆様と手を取り合い、こどもたちの成長を見守っていききたい。

事例2

『本物のドーナツ屋さんになりたいな!』 ~遊びからつながる3歳児の保育実践~

【目的】・遊びの中で豊かな経験を積み、やってみたいことを友だちや保育士と一緒に楽しむ。  
・身近な人と関わり、一緒に活動する楽しさを味わう。

【園内の取り組み】

〇〇〇まつり

◆9月 年長児主催「〇〇〇まつり」開催

年長児がどんな屋台をやりたいかを話し合いながら進めていきました。お祭りの屋台について調べたり作っていきうちに、やってみたいことやアイデアがどんどん出てきました。最終的には**9種類ものお店を出店!**今までの遊びの中での経験も活かし、2日間にわたってその後も十分楽しみました。



◆10月~11月「わたしたちもお店屋さんごっこしたい!」

〇〇〇まつりで年長児にあこがれをもった3歳児。お店屋さんに必要なものを一緒に考えていると「ドーナツやさんがしたい!」との声があがり、新聞紙や絵の具を使って保育者と一緒にドーナツを製作しました。そのうち自分たちだけでもたくさん作れるように。「本物みたい!」「お客さんに来てほしいな」自信をつけたこどもたちは他のクラスに呼びかけて複数のお店を開店。行事では大好きなおうちの方を招待してお店屋さんごっこを楽しみました。



◆1月 ドーナツクッキング

十分に“ごっこ遊び”を楽しんだこどもたちから、今度は「本当に食べられたらいいのにな~」というつぶやきが。担任は“クッキング!”とひらめきました。「給食の先生に相談してみるね」後日調理員が「すごくいいね!一緒にドーナツを作ろう!」と賛同しこどもたちは大喜び!やってみたかったクッキングが実現し、こどもたちは自分たちで作った本物のドーナツを他のクラスに売りに行くことができました。



~行事について~

数年前、参加する人全員が幸せな気持ちになる会にしたいという思いから、行事名を“発表会”から“HAPPY会”に変更しました。大好きなおうちの方にお客さんになってもらったこどもたちはとても嬉しそう!保護者アンケートではこどもたちとのやりとりがとても楽しかったとの感想をいただきました。会場が笑顔でいっぱいになり、ドーナツ屋さんも大盛況でした😊

おうちの人がお客さん→



HAPPY会

~調理員との連携について~

調理員は食育の視点で保育に積極的に関わっています。担任は事前にクッキングについて相談し、調理員はこどもの発達やクラスでの様子について共有しているので、いちご組の“ドーナツを作りたい”という思いをすぐに理解してくれました。

関わる職員の「いいね!」でこどもたちのやってみたいことが実現されていきます😊



## 🌱 保育理念

〇笑顔あふれる、あたたかい保育園

## 🎯 保育目標

- 〇心も体も健康な子ども
- 〇豊かな感性を持った子ども
- 〇考えて行動できる子ども
- 〇自分も友だちも大切にできる子ども

## 💡 園評価に使ったツール

- ☑ 事務室だより
- ☑ 園だより
- ☑ クラスだより
- ☑ 保護者アンケート

## 🔔 公表

- ☑ 事務室だより
- ☑ 園だより
- ☑ クラスだより
- ☑ 保護者アンケート

事務室だより・園だより  
職員との対話を発信

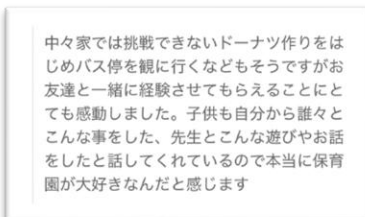
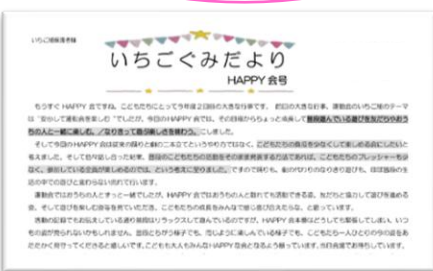
📄 ドキュメンテーション  
子どもとの話し合いを発信



📄 保護者アンケート  
行事の振り返りを発信

📄 クラスだより  
担任の思いとクラスの  
行事のねらいを発信

🗨️ 保護者の声



## 🔄 振り返り 園評価

どの学年も、園の方針である“子ども一人ひとりの思いを受け止め、「やってみよう！」を大切にし、遊びの環境をつくることを大切にしてきた。職員は対話を通して毎日保育を振り返り、子どもたちの豊かな経験につながるよう計画を立て、他クラスの職員や調理員とも協力しながら保育を進めてきた。保育者が子どもの「やってみよう！」を大切に環境をつくることで、子どもたちは意欲的に遊び、遊びの中がかかわり合う姿がたくさん見られた。保護者には遊びの様子をその都度お伝えし、行事は子どもの姿と普段の保育を実際に見ていただく貴重な機会となった。保護者アンケートによるうれしい感想は職員のやりがいにもつながった。子どもをまん中に保育者、保護者、調理員などみんながつながることで子どものワクワクが実現し、ドーナツ屋さんさんの取り組みは子どもたちにとって豊かな経験につながったと感じる。

## コラム：『今こそ「こどもの権利」を考えるとき』

今、こどもの「人権」について様々な取り組みが進められている。「こどもが権利の主体」であるという認識をもって保育にあたるなど、質の高い保育を実践するための視点や方向性をしっかりと確認することが非常に重要である。

新潟市子ども条例の基本理念では「子どもは、一人の人間として尊重され、今を豊かに生き、成長発達する権利を子ども固有の基本的権利(こどもの権利)として有しています」とある。また、これを実現するために「身近なおとなに、いつでも自由に思いや願いを表明し、ありのままに受け止めてもらい、適切に応えてもらうこと」と続いている。こどもの表明の仕方は、そのこどもが今できるやり方でよく、乳幼児であっても自由に表明できる権利である。「この子は今何をしてほしいのか」「何を求めているのか」を考慮し、一人ひとりのこどもに必要なものを見極め、対応できることが大事で、そうした「受容的・応答的」なかかわりがこどもの成長、発達につながっていく。

そのためには、こどもが欲求や意見を出しやすい環境であるかも含めて、今こそ「あたりまえ」を見直し、日々の受け止めの中で「こどもが権利の主体」として尊重していくことが重要である。





### 事例3

## 楽しかった！明日もたのしみ！！な保育園(こどももおとなも！！)

【目的】一人ひとりのこどもの姿(年齢・成長・発達・家庭環境)に配慮した安心・安全な保育園を目指す。

全職員参加の園内研修やってみよう！～みんなの思いをひとつに～

#### 【園内の取り組み】

##### 「こども理解や保育の振り返りにつながる日頃の取り組み」

として、全職員(調理、短時間保育補助含む)を3～4グループに分け、テーマに沿った語り合いを行いました。テーマは、その時に話し合いたい内容を職員からピックアップして研修をおこないました。



##### 〇「楽しい給食について」の語り合い



調理員も子どもと一緒に食事をする中で、子ども達の様子をみながら調理を工夫し、保育者とたくさん話をしながら子どもの育ちを支えています。0,1歳児クラスには食べている様子を見に行き、日々様子を共有しています。

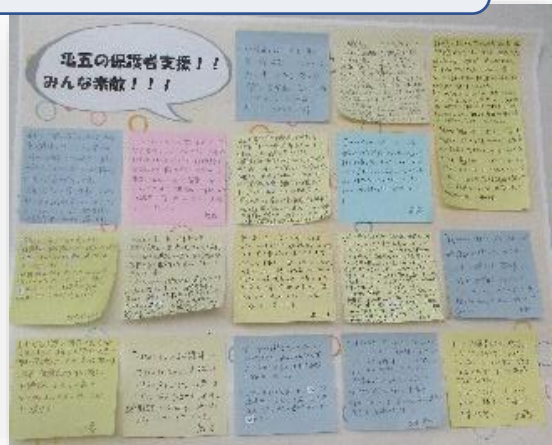
調理員も保育者も一緒にグループで話をする中で、前向きな気づきがたくさんありました。記録は、その場で付箋や模造紙に書き、貼り出しています。グループワークでのファシリテーターも交代で行うことで、より主体的な語り合いになりました。また、研修後の振り返りを行うことで、語り合いから出たことを実践につなげていきました。

様々な職種同士が、保育が理念に沿っているか、工夫しながら実践を振り返っています。

#### ◆語り合いの題材いろいろ◆

- 〇保育園のなぞルールについて(あたりまえの見直し)
- 〇～ちゃんって、どんな子?
- 〇職員の素敵などころについて語り合おう!
- 〇自園に求められる保護者支援について考えよう!

保護者には園での取り組みや保育について園日よりやドキュメンテーションで発信していきました。



保育のエピソードから、こどもの姿を振り返った。

園の保育目標とつながっていることが再確認できた!

明日はどんなわくわくが待っているだろう!

明日も楽しみな保育園へ

**おばけやしきごっこがあります!**

2025年9月20日(水)

園の保育目標  
 ○思いやりあるこども ○よく考えるこども ○よく遊ぶこども です。  
 この日、保育者や子どもたちが協力して、おばけやしきごっこを行いました。おばけやしきごっこは、子どもたちが想像力を発揮し、楽しみながら学ぶことができる活動です。

「おばけやしきごっこ」の準備  
 「おばけやしきごっこ」の準備として、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。

「おばけやしきごっこ」の様子  
 「おばけやしきごっこ」の様子として、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。

「おばけやしきごっこ」の振り返り  
 「おばけやしきごっこ」の振り返りとして、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。また、園庭に仮装用の看板を立てました。

一人ひとりの子どもの思いに寄り添う保育

## 🌱 保育理念

- 一人ひとりのこどもの姿(年齢・発達・家庭環境)に配慮した安心、安全な保育園を目指す

## 🎯 保育目標

- 思いやりのあるこども
- よく考えるこども
- よく遊ぶこども

## 💡 園評価に使ったツール

- ☑ 各種おたより
- ☑ 日々のドキュメンテーション
- ☑ 保育実践振り返りの園内研修

## 🔔 公表

- ☑ 保育ドキュメンテーション
- ☑ 園だより
- ☑ 保護者からの意見を収集



令和7年10月3日

保育園での生活の中で、給食は大きな割合を占めています。生きるための基礎となる「食」が豊かに、そしてこども達にとって楽しい時間となるようように進めていってらよの保育者、調理員と一緒に暮らしています。

全職員が共通の思い「おいしく・楽しく給食を食べてほしい」を柱として食事のマナー(挨拶、姿勢、食具の持ち方など)や味わい方の指導、言葉かけのしかたについてそれぞれ語り合いました。

**おいしく・楽しく給食を食べてほしい!!**

一人ひとりのまなごにみんなが行き届いて、全部食べる。時間内に食べるといふことは無理のあることだよね!

年中中の活動の工夫が...

給食もこども達と一緒に食事をする中で、こども達の様子を見ながら調理を工夫し、保育者もたくさん話をしながらこどもの育ちを支えています。0、1歳児クラスには食べやすい様子を見に行き、日々様子を見守っています。

- ◆ こども達が明日も楽しい保育園になっているか?
- ◆ 保護者に伝わっているか?

ポイント

- 🗣️ 保護者や地域の声
- 園全体で、何を大切に保育しているか具体的に取組がわかり、安心感につながっている。
- 保育に関心が持てるようになった。
- 園に対する感謝の気持ちが大きくなった。

園全体が学びを深めていることを保護者に発信することで、保護者も、園の実践の振り返りがイメージしやすくなります。

## 🏠 園内研修での学び合い

保育園では、毎月園内研修を行い、保育について考えたり、安全に保育を行うための様々なマニュアルの確認をしたりと、いろいろなことについての学び合いをしています。今回は6月に行った内容を少し紹介したいと思います。

まずは全職員で、それぞれに『こどもを尊重した保育と保育実践の振り返り』という研修動画をみました。その中では、「こどもの権利条約」「こども一人ひとりを尊重するって、どういうことだろう」「保育園の謎ルール...これってどうなの?」などについての学びを行いました。この、「こどもの権利条約」は、こどもが「弱くておとなから守られる存在」という考えから、こどもも「ひとりの人間としての人権(権利)」をもっている=「権利の主体」という考え方に大きく転換させた条約です。

全職員を3つのグループに分け、それぞれが保育中のエピソードを持ち寄り、語り合いを行いました。嬉しかった場面や対応に困った場面、うまく援助できたエピソードなど様々な語り合いを行ったことで、自分が思っていた姿とは違うこどもの一面を知ることができたりと、こども理解にもつながりました。

どの園でも行っている園内研修ですが、亀田第五保育園では、今より、もっともっと「こどもも大人も毎日がワクワクする保育園」を目指して、語り合いを重ねていきたいと思います。おうちの方も、とんとんおこさんについてのいろいろなエピソードを教えてくださいと嬉しかったです。

## 🌿 園内研修の取り組み～全職員によるグループワーク～

12月の園内研修では「みんなの良いところを見つけよう」をテーマに語り合いを行いました。「〇〇先生の穏やかなところ、真似したい」「〇〇先生はこどものつぶやきから遊びを展開させるのが上手」「〇〇先生が全体をよく見ている、自分の足りないところを教えてくれるから有難い」などなど、ここでは書ききれないほどたくさんエピソードが出ました。職員の休憩室に貼り出し、他のグループの話も見ることができるようになってあります。また、須賀義一さん著『保育が変わる信頼をなくさず言葉とかわり』(東洋館出版)の一部を抜粋し読み合わせ、「保育や子育てはとでもモラルハラスメントが起こりやすいもの」であることを学びました。「正しさ」を理由に、こどもを傷つける言動や冷たい対応、不安、不信を招く関わり、こどもを支配したり、大人の感情をこどもにぶつける行為が起きかねない」とも書いてありました。『こどもの人権』についてみんなで語り合いながら、こどもたちがより安心して過ごせるよう、より良い保育を目指していきたいと思っています。

**ドキュメンテーションへのコメント、ありがとうございます!!**  
先月お渡しした付箋紙に早速コメントや素敵なシールを貼っていただきました。職員で嬉しく拝見しています。コメントは引き続き募集中ですので、とんとん貼っていただけると有難いです!

## 🌱 振り返り 園評価

- 園内研修では、全職員がグループでの語り合いの中で、新たな気づきの発見や前向きな意見が出てきて、自分の保育を振り返るよい機会となった。
- 園内研修の語り合いや日々のミーティング等を通して、職員同士語り合う姿が増え、一人ひとりのこどもや保護者に必要な支援を、みんなで行動する姿が増えた。
- 「今日保育園楽しかった!」「今日の給食おいしかった!」というこども達の声や、日々、職員がこどもの姿を丁寧に保護者に伝えている姿が増え、こどもも保護者も職員も笑顔が増えてきている。
- 保育園での取り組みや園内研修での職員の学びは園だよりやドキュメンテーションで保護者に伝え、園の取り組みについて知ってもらうことで安心感につながっている。保護者の声は職員のモチベーションとなっている。

事例4

みんなで語り合おう ～こどもをまんなかにした保育～

【目的】 早朝、日中、延長の枠をこえて園全体で同じ思いをもって保育していくため

【園内の取り組み】

ミドルリーダーが中心となり園内研修を実施

⇒ 園内研修について前年度の振り返りからの課題を次年度へつなげた

『早朝、延長、担当クラスの枠をこえてチームを編成し、同じ思いで保育していくための語り合いを実施』

『語り合いとは・・・？』

語り合いってどんな雰囲気で行く？ありのままの思いを交換して、お互いを認め合うためには？  
語り合いからこどもまんなかの保育につなげたい。

- ・早朝、延長の職員も一緒にやれるとよかった。
- ・順番に話すのが語り合い？
- ・研修内容に全職員の意見を反映させたい。
- ・研修内容を早く共有したい

- こどもの姿からの気づきなどを保育者同士で語り合うことで、「そんな捉え方もあるんだな」など、こどもの見方が広がっていく。
- 保育者同士が互いのありのままを認め合うことを通し、ウェルビーイングが高まる。自分を大切にできるようになれば、こどもの善い面にも気づくようになる。※ウェルビーイング:しあわせな状態
- 保育者が安心して働き、新たな挑戦をしたくなる環境を整えることが、こどもの幸せな未来を形づくる保育へつながっていく

『全職員の思いを反映させた研修内容 ～こどもをまんなかにした保育とは～』

- 5月・昨年度作成した園内マップ、お散歩マップの見直し
- 6月・嘔吐処理、熱性けいれんのロールプレイ
  - ・5月に見直したものを各クラスで分担して改善し、振り返る
- 7月・こどもをまんなかにした保育について(動画を元に)1歳児・3歳児・5歳児
- 8月・こどもをまんなかにした保育について(動画を元に)0歳児・2歳児・4歳児
- 9月・こどもをまんなかにした保育について(動画を元に)早朝・延長
- 10月・こどもをまんなかにした保育について経過報告1歳児・3歳児・5歳児
  - ・遊びについて語ろう！
- 11月・こどもをまんなかにした保育について経過報告0歳児・2歳児・4歳児
  - ・遊びについて語ろう！
- 12月・こどもをまんなかにした保育について経過報告早朝・延長
- 1月・こどもをまんなかにした保育について振り返り(実践してみてどうだったか)
- 2月・園内研修の振り返り(1年を通してやってみてどうだったか)

前年度の振り返りから・・・

- ・こどもまんなかの保育を継続したい
- ・こどもにとってどんな関わりが必要か相談したい
- ・動画によって同じ場面を見て相談したい
- ・年度始めに学びたい内容もある  
全職員の思いを反映させた内容に！



こどもをまんなかにした保育について、動画による研修より・・・

例:1歳児クラスより 初めてのことが苦手なAちゃんの姿より

みんなと同じことをしなくちゃいけない？ありのままの姿を受け止めよう。Aちゃんをまんなかにした関わりを語り合った。

5歳児クラスより 集団生活の中でも、一人ひとりの遊びや生活が保障できているか

一人ひとりが生活に見通しをもち、安心して自己発揮しながら過ごせている。担任全員が同じ思いで保育できていることを確認。

語り合いから、“実践”、“振り返り”を繰り返して、こどもをまんなかにした保育につなげている

ICTの活用でスピーディーな共有

業務支援システムでの研修報告機能を活用し、全グループの研修報告を回覧。

タイムリーな共有をすることで、翌日の保育に活かすことができ、よりよい保育実践につながっている。

## 🌱 保育理念

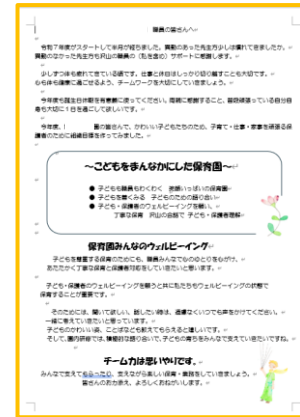
- こどもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う
- こどもと保護者の安定した関係のために、保護者一人ひとりを尊重し援助する

## 🎯 保育目標

- 可能性をのばそう: やってみよう、できるかな
- 思いやりの心を育もう: 自分が好き、お友だちが好き
- 学びの芽を伸ばそう: よく見て、聞いて、考えて

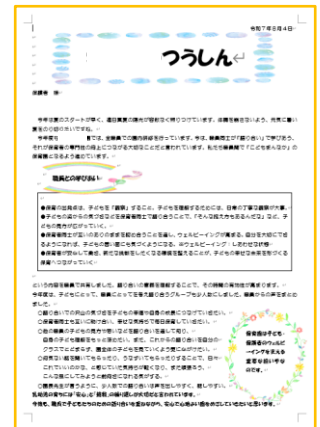
## 💡 園評価に使ったツール

- 園だより
- 事務室だより
- 保育ドキュメンテーション



## 📢 公表

- 事務室だより
- 直接保護者の声を聞く



## 💬 保護者や地域の声

- 家族で園のことやこどものことを話し合う機会につながった
- 園の先生がこどものために話し合っていると感じ、安心して預けることができる
- 園から発信されるものを通して、夫婦でこどもの姿を話すきっかけとなった
- ドキュメンテーションから、園での様子が分かりやすく、こどもとの会話の中でもイメージができるので、より会話が楽しく感じる



## 🌸 振り返り 園評価

### 自己評価として…こどもの育ちを職員みんなで支えることができている

園の保育目標に沿った保育が実現できているかどうか、動画で保育を振り返り、語り合っている。色々な職員目で見てもこどもへの関わりを振り返ることで「一人ひとりが生活に見通しを持ち、安心して自己発揮しながら過ごせている」「担任全員が同じ思いで保育できている」ことを確認できた。

こういった取り組みが保護者にどのように受け入れられているのかについては、保護者に直接話しかけ、声を聞くことを大切にしてきた。園長が問いかけるだけでなく、担任からも機会を見つけて、保護者の感想やご意見を聞かせてもらい、それを更に事務室だよりでの発信し園評価につなげている。

コラム： 『どこの園でも

## 保育はどんどん良くなる』

今、社会では保育の質の確保・向上が大きなテーマとなり、各園ではこども中心の保育実践に向けた検討が行われている。園を開く取組が新潟市でだんだんと広がりを見せる中で、これまで自園での研修や研究が中心であった園においても、こどもの姿を様々な職員同士で語り合う機会を重ねることで、少しずつこども主体の保育が実践されるようになってきている。

『保育所における自己評価ガイドラインハンドブック』では、「子どもが何に興味をもち、どのようなことを感じているのか、こどもたちの遊びが充実するためにどうしたらよいのかなど、『こどもにとってどうなのか』という視点から、保育のありようを考えてみることが何よりも大切」とある。

保育者がこどものことを「よく見よう」とすることが保育の基礎ではないだろうか。そこで捉えたこどもの姿から、保育者が「こんなことやってみたい」という思いを描き、日ごろの対話によって後押しや助言を得て実践してみる。そしてまたこどもの姿を振り返る。すると手応えとして保育が「もっと楽しく」なっていく。このようにして保育がどんどん良くなる連鎖が始まるのではないだろうか。





事例5

# “こどもの思い”をのせた発表会にするために

【目的】 行事の見直しを行い、こどもたちの主体的な思いを大切に保育する

## 【園内の取り組み】



月に1回の職員会議で、昨年度の反省を基に発表会の見直しを行う



サークルタイム  
皆で顔を見合わせながらの話し合い

### 職員会議にて【発表会】の見直しを行う

～「こどもにとってどうか」の視点から～

例年、発表会の翌週に祖父母を招き、ミニ発表会を行っていました。話し合いの中で「大勢の人に観てもらいたいが、こどもたちにとって2回行うことの意味ってなんだろう?」「こどもたちに負担がかかっているのではないだろうか」「普段の遊びも充実させたい」と意見が出ました。

そこで、基本に立ち返り“こどもたちにとってどうだろう”という視点に立ち「こども主体で取り組みたい」「こどもたちがやりきった達成感や満足感を味わえるようにしたい」という思いから発表会は1回にすることに決めました。日々の保育の流れに配慮したねらいのもと、担任はこどもたちの声を聞きながら取り組みを始めました。



### こどもが主体になり、考え、楽しめる発表会に♪

「遊びの中で行っていることを発表に取り入れていきたい。」という担任の思いの中、“発表会で何をしたいか”保育者も一緒に加わりながらこどもたちを中心に話し合い、進めていきました。

決まった役をずっとやるのではなく、こどもたちがやりたい役をいろいろと試すことで、一人ひとりが自分のやりたい役になりきっていききました。



日々のこどもたちの活動のドキュメンテーションを作成、配信することで“こどもたちの様子・興味・関心、保育者の気づき・発見”を保護者の方と共有することができます。ドキュメンテーションが保護者の方との会話のきっかけとなり、保育理解・こども理解にもつながりました。



ドキュメンテーションを随時配信

こどもたちと担任で話し合いながら進めたことで、発表会当日まで楽しみながら広げていくことができました。発表会が終わった後も遊びが継続し、廊下で年中さんが年長さんの踊りを踊ったり、こども同士で見せあひっこをする姿も見られ、活動の充実にもつながりました。

今後は、担任の思いや取り組みを保護者の方のみに発信するのではなく、園内で共有すること、進捗状況を把握し、園全体でこどもたちと職員を支え、協力していく必要があると感じています。

## 保育理念

○また来たくなる〇〇保育園

## 保育目標

○自分の気持ちを安心して表現できることも

○人との関わりを喜び、認め合えることも

○いきいきと遊ぶことも



## 園評価に使ったツール

- ☑ 連絡帳
- ☑ 保育ドキュメンテーション
- ☑ 送迎時の対話

## 公表

- ☑ ICT 業務支援システム  
(アンケート機能を利用)

## 保護者や地域の声

○発表会が一日になったことで祖父母も一緒に観ることができて良かった。

○年長になるといろいろなことができるようになることが知れて驚いた。

○いつも人前に立つと泣いていたわが子が、年長になり泣かずに友だちと劇をやっていて感動した。



○クラス以外の先生がこどものちょっとした変化に気づいて声をかけてくれることがうれしい。

○こどもの性格をよく理解して保育を行ってくれてありがたい。

## 振り返り 園評価

“こどもたちにとってどうなのか”を考え、職員同士声を掛け合いながら保育や行事を進めてきた。こまめにクラスの様子をドキュメンテーションで配信したり、それを基に保護者と会話をする中で、こども一人ひとりのやる気やクラス全体の協同性の育ちを伝えることができた。

保護者アンケートでは、発表会に祖父母も一緒に参加できて良かったと評価していただいた反面、大勢の人が集まることにより不参加にしたという言葉もいただいた。発表会の見直しを行った際に、こちらの意図が保護者の方に伝わるように工夫するべきだったと感じた。

また、保護者のご意見から、職員のこども理解が深まり、それが伝わっていることへの手ごたえを感じることもできた。今後も職員と振り返りを行う中での気づきを、次年度の保育に生かしていきたい。

事例6

こどもが主役の行事に ～保育が見える化し、こどもの思いを形に～

【目的】

- ・行事の内容について見直すことで、こどもたちの主体性や意欲を育む。
- ・保育活動の経過を見える化することで、園と保護者との相互理解につなげる。

【園内の取り組み】

・保護者に「見せる」行事とそのための活動ではなく、こどもたちの「やってみたい」「もっとこうしたい」という意欲を育むというねらいのもと、運動会の内容を検討した。4・5歳児クラスのこどもたちと話し合いを重ねる中で、これまでの伝統でもあり毎年恒例の“鼓隊”ではなく“カラーガード”を行うことに。運動会当日だけでなく、そこに至るまでの経過を伝えることに重点を置き、話し合いや活動の様子などについて保育ドキュメンテーションを活用してタイムリーに保護者に発信したり、廊下に掲示したりすることで保護者の関心が高まった。

《4・5歳児 運動会までの道のり》

《3歳児 運動会に向けて》



こどもたちと一緒に作り上げる手作りの運動会！

・5歳児の“カラーガード”に4歳児の“バルーン”も加わったことで4・5歳児混合クラスの良さが感じられる演目となり、保護者からも大変好評だった。こどもたちにとっても、自分たちの思いやアイデアが保育者のサポートで形になっていくことで達成感につながった。

発表会へとつづく…

・12月の発表会では、運動会での経験を活かし、さらに成長が見られた。遊戯や創作劇遊びの内容や小物作りなどにも意欲的に取り組み、自由な発想と表現力がきらりと光る、充実した発表会となった。

《4・5歳児 発表会までの道のり》



保育ドキュメンテーションを掲示。見える化はこどもたちや職員にも有効だった

## 🌱 保育理念

〇わくわく・ぽかぽか・にこにこ笑顔 ～みんな なかよし～

## 🎯 保育目標

- 〇元気なこども
- 〇やさしいこども
- 〇考えて行動することも

## 💡 園評価に使ったツール

- ☑ 園だより
- ☑ 事務室だより
- ☑ 保育ドキュメンテーション
- ☑ 園内研修での記録

分野別グループに分かれての園内研修。記録を保護者向けに掲示(食育グループ)食育の取組みについて保護者向けに発信

## 📢 公表

- ☑ 保育ドキュメンテーション
- ☑ 各種おたより
- ☑ 保護者からの意見を収集



## 💬 保護者や地域の声

〇こどもたちと先生が楽しそうに一緒に行事を進めている姿に成長を感じました  
などなどたくさん寄せられました

(保育の質グループ)  
保護者が感想を書きやすいようポケットを付けて付箋とペンを入れる工夫も

## 🌸 振り返り 園評価

〇保育方針や行事への取り組み等について、保護者と共有しながら丁寧に伝えていくことで、園の保育活動への理解を得ることができ、信頼関係の構築につながった。  
〇保護者だけでなく、こどもたちや職員にも活動の様子が伝わりやすく、園が一丸となって同じ意識で保育にあたることができた。今後も対話を重ね主体性を育む保育を行っていきたい。

～おわりに～

本事例集の作成にあたり、以下の園や関係者で編集を行いました。

《作成協力園》

新潟市立 ちとせ保育園 (北区)  
山木戸保育園 (東区)  
亀田第五保育園 (江南区)  
大通保育園 (南区)  
坂井輪保育園 (西区)  
岩室保育園 (西蒲区)

《作成協力者》 指導保育士

中央区健康福祉課  
秋葉区健康福祉課  
こども未来部幼保支援課

